

偶有談及聯句百韻者、將請見其詞藻、道作先是既貸之於他、以今不有於此、道乙乞紙筆、自書其所譜記、使坐客見之、後比對之、百韻不差一字、強識之性、大率若此、

〔著舊得聞〕日置新六、名ハ新、號花木深處、初僧トナリ、破衲ヲ著シ、乞巧ノ者ノ如クニテアリシヲ、義

公○徳川如何ニシテ知リタマヒシニヤ、召シテ還俗セシメ仕ヘ奉ル、極メテ強記博識ノ人、春秋

左氏傳ヲ諳記セリ、

〔假名世説〕白石先生名ハ石、字ハ君美、又在中、七歳の時、芝居見にゆきて、はじめより終まで、一々に記憶して歸られたりとなり、此兒あしくなる歟、なみくならずと、父のいはれたりとぞ、

〔著舊得聞〕小池七左衛門友賢、母ハ室鳩巢ノ妹ナリ、四書五經ヲ諳記セシ婦人ナリシトゾ、老牛其

家ヲ訪ラハレシニ、老牛サマ博學ノ聞エオハスレド、經學ノ事ハ老婆ニ及ビタマフマジト云ヘ

バ、老牛中々以テ及ブ事ニアラズトテ、笑ハレシトゾ、竹苞先生話

〔先哲叢談六〕物茂卿○中略

大岡忠相越前守曰、聞徂徠博識洽聞無所不知、余將試問以躡其答、乃招問曰、世有鼠婚之説、何謂也、徂

徠答曰、事出於某年、某人所著一小説也、乃其書所載鼠類之眷屬名姓、矢口縷縷如注、忠相始服其疆

記、

〔甲子夜話十三〕徂門ニハ放達不羈ノ人多シ、行檢ヲ以テ取ルベカラズトイヘドモ、其氣象快活近

世ノ腐儒ニハ優ルベシ、筑波山人石仲ハ、家常ニ四壁ノミニテ、儻石ノ貯モナキ時、人ヨリ講經ヲ

請テ招ケバ、淨瑠璃本ヲ携行テ、見臺ニ載、サキノ好ミノ經書ナド、諳誦ニテ、講義ノ用ヲ成セシト

云、

〔先哲叢談續編三〕原雲溪

雲溪性尤強記、常諳誦唐詩一千首、嘗在一貴紳坐、話及唐高僧事蹟、背誦明人毛晉所校刻唐三高僧

事蹟、背誦明人毛晉所校刻唐三高僧